

いざ！という時の火災対処法

被害を最小限に抑えるために…



火災は自らの力で防ぐことの出来る災害です。起こさないことが一番ですが、「ついついっかり」や放火などで被害に見舞われるかもしれません。

火災は小さなうちに消火することが大切です。あわてず、適切に初期消火を行うことができるよう知識を身につけましょう。

火災が起きたときの3原則

119番通報する！

大声で叫び、隣近所に知らせる。落ち着いて119番通報を。

初期消火を行う！

炎が天井に達する前の出火直後であれば、自ら行う初期消火も有効。

避難する！

危険だと感じたらすぐに避難。余裕があれば窓やドアを閉めて空気を断つ。

てんぷら油やストーブ

酸素を遮断する

ぬらしたシートやバスタオルなど、面積の広い布を手前からかぶせて酸素を遮断
※水をかけると、炎が一気に拡大するので大変危険です。



電化製品

プラグを抜く

プラグをコンセントから抜き、できればブレーカーも切った上で水をかけて消火。
※プラグがささったまま水をかけ、その水たまりが足元にまで及ぶと、感電する恐れがあります。

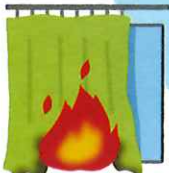


さまざまな消火方法

カーテン・ふすま

水をかけるか踏む

まずは水をかけるか、周囲に水がない場合は、カーテンなら引きちぎり、ふすまなどは蹴り倒し、足で踏んで消火。
※天井に炎が燃え移るまでが初期消火の限度なので、迅速に行動する。



衣服

転がって水をかける

転げまわり、火を消す。その後、水をかけるか浴槽の中に飛び込む。
※髪の毛に火がついたら手で払うか化繊以外のタオルを頭からかぶる。



知ることが防災につながります

◎通常、「**標高**」は、山や高原など土地の高さを表すときに用いられるのに対して、「**海拔**」は、津波や高潮など、主に災害対策に用いられています。

「**海拔**」…近海の平均海面（0m）が基準。 「**標高**」…東京湾の平均海面（0m）が基準。

◎自分の住んでいる地域が海面からどのくらいの高さにあるのか確認しておきましょう。

◎「**地理院地図**」で現在地の標高がスマートフォンなどで瞬時にわかるようになりました。
土地勘のない場所にいる時でも手元で確認することができます。

- ・スマートフォンやタブレットで地理院地図を開き、画面右下のアイコンをクリックすると、地図が現在地に移動するので、今いる場所がわかります。
- ・画面下部にある黒い帯にその場所の標高が表示されます。
- ・災害避難時や、旅先などで標高を確認したい時などに役立ちます。



定例会での救命講習



出水・阿久根・長島町
女性消防団交流会



霧島神社例大祭
防火防災啓発劇



28回全国女性消防団員大会
全国女性消防団員
活性化石川大会

活動報告



いきいきサロンでの
出前講座

まだまだ感染症等の
心配がある中ですが
皆様の安全の為
出来る事を探し
活動していきます



保育園での救命講習